

臨床検査技師養成教育カリキュラム等における

臨地実習の各論点課題に対する意見とりまとめ提言書 概要

○近年の医療環境の変化や質の向上に対応するため、臨床検査技師養成教育カリキュラムにおける臨地実習は時代の変革に合わせて都度の見直しが必要となる。本提言書は、日臨技が主となり日臨教とともに整理を行うこととなった臨地実習の現状に対する以下5つの課題について、専門のWGにより整理のうえ、意見を取りまとめ、その解決に向けた具体的な提言をまとめたものである。

＜課題内容＞

- (1) 臨地実習施設における学生受入れの実態把握
- (2) 臨地実習の進捗と達成度を明示的に評価できる仕組みの検討
- (3) 臨地実習時に学生が経験すべき行為の見直し
- (4) 学生と臨地実習施設のマッチングができる仕組みの検討
- (5) 臨地実習指導者の考えをまとめ、Scopeと到達目標の検討

○日臨技及び日臨教には本提言を踏まえ、その内容を適切に吟味したうえで、令和8年度より予定開始される次期カリキュラム改正のために国へ提出する要望書の作成に着手されることを期待する。

○新制度の臨地実習へ移行中だが、学生の受け入れ体制や進捗・達成度の評価方法が施設ごとにばらつきが見られるほか、学生が経験すべき行為の基準も十分に統一されていない状況にある。また、学生の実習施設配属や、実習指導者の役割・配置体制においても改善の余地があり、施設間での地域格差や指導者負担の増大が顕在化している状況にある。

これらの課題に対し、本提言書は以下の解決策を提案する。

1. 進捗・達成度評価の標準化と統一基準の策定

実習前評価と臨地実習中の進捗評価を標準化し、現場の負担を軽減しつつ、教育の質を高める仕組みを導入するよう提案する。

2. 学生が経験すべき行為の再検討

行為内容の見直しにおいて、“スパイロメトリー”は段階的教育目標として整理し、実施要件を柔軟に設定するよう提案する。“尿沈渣の観察”は実施必須として加えることを提案する。また、患者同意と倫理的配慮をスムーズに行える体制を整備するよう提案する。

3. マッチングシステムの構築

広域的なサポート体制と既存システムの活用による施設情報の可視化を推進し、学生と実習施設の円滑な配属を実現出来るよう提案する。

4. 指導者体制の強化

臨地実習指導者の役割をより明確化し、各施設における配置の安定化を図るとともに、学校養成所による定期的な施設訪問を必須化するよう提案する。

○本提言が実現すれば、臨床検査技師養成の教育・実習の質が向上し、次世代の医療人材の育成に大きく貢献すると期待される。厚生労働省や関係機関との連携を通じて、臨地実習がより効果的で現実的な仕組みとなるよう、今後も引き続き検討を進めていく。